

日本女性骨盤底医学会雑誌 投稿規定

1. 投稿資格

筆頭著者は原則として日本女性骨盤底医学会の会員に限る。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りでない。

2. 投稿内容

総説、原著、症例報告、手術手技、その他とし、他誌に未投稿のものに限る。二重投稿および同時投稿は禁ずるが、総説としての投稿は可とする。なお学会時に発表した原著論文の場合は、“本論文の要旨は第〇〇回日本女性骨盤底医学会において発表した。”と論文末に記載する。

3. 論文投稿

投稿原稿および誓約書 (PDF)、投稿者用チェックリスト (PDF) は、メール添付で下記の学会誌編集事務局のアドレスに送付する。郵送は原則受け付けない。また投稿論文の著作権は日本女性骨盤底医学会に帰属するものとし、将来の web 上での公開に同意すること。

4. 論文の書き方

- 1) 原稿はワープロソフトを用い左横書きとし、原則和文に限る。A4 用紙 1 頁 400 字 (20 字×20 行) とし、字数制限は設けない。文章はひらがな混じりの口語体で簡潔に、当用漢字、現代かなづかいに従い、句読点を正確にうち、改行を明確にする。
- 2) 外国人名・地名・雑誌名は原語を用いる。単位、記号は、m, cm, mm, μ , μ m, g, mg, μ g, l, ml, °C, pH, Ci, mCi, μ Ci などとする。本文中の数字は算用数字を用いる。文中の略語は初出時に必ずフルスペルで記載する。
- 3) 論文の最初に 5 語以内の Key words を添付する。
- 4) 原著論文の記述の順序は、原則として次のようにする。1 頁目は表題、所属、著者名 (それぞれ英文も併記、姓名は Taro Fukuoka のように記述する)、5 語以内の Key words、著者並びに校正責任者の連絡先 (住所、電話・FAX 番号、メールアドレス)、2 頁目は表題、所属、著者名、Key word の英文表記、3 頁目に概要 (600 字以内)、4 頁目に英文抄録 (ダブルスペース 250 語以内) とする。英文は native check を受けることが望ましい。英文校正を事務局に依頼する場合は実費を著者負担とする。以下緒言、方法、成績、考察、文献、図、表の順に記載する。また症例報告では緒言、症例、考察、文献、図、表の順に記載する。
- 5) 投稿にあたり個人情報の取扱いは個人情報保護法を遵守する。とくに症例報告においては患者のプライバシー保護の面から個人が特定されないよう、氏名、生年月日、来院日、手術日等を明記せず、臨床経過がわかるように記述する。臨床研究の場合は、倫理委員会の承認を得て承認書類を送付する。以上の配慮をしても個人が特定化される可能性がある場合は、発表に関する同意を患者自身 (本人の意思が表明出来ない場合は代諾者) から得る。
- 6) 本文中では引用部位の右側に文献番号¹⁾・²⁾… を付ける。文献は著者名と論文の表題をいれ、本文の末に一括して引用順に下記のように記載する。著者が 4 名以上の場

合は最初の3名のみを記載し、その他は、et al.あるいは他と略す。欧文の雑誌名はIndex Medicus、本邦は日本医学雑誌略年表（日本医学図書館協会編）により、Vancouver方式に従う。

・雑誌の場合 引用番号) 著者名：題名. 誌名 巻数：頁数, 年次

例1) Furuya R, Takahashi S, Furuya S, et al. : Chlamydial seminal vesiculitis without symptomatic urethritis and epididymitis. Int J Urol 13 : 466-467, 2006

例2) 菊地栄次, 中島 淳, 安藤利行, 他 : 前立腺癌放射線外照射後の性機能の検討. 日泌会誌 102 : 575-580, 2011

単行本の場合 : 著者名 : 題名. 書名, 版, 頁, 発行社, 発行地, 発行年.

例3) Stamey TA and McNeal JE: Adenocarcinoma of the prostate. In Campbell's Urology, 6 th ed., p1159-1221, Saunders Co., Philadelphia, 1992

例4) 日本泌尿器科学会日本病理学会編 : 前立腺癌取扱い規約. 第3版, p25-30, 金原出版, 東京, 2001

7) 原稿はMS Word、グラフ・表はExcelを使用し、写真はJPEG形式（カラー300dpi以上、モノクロ100dpi以上）のデータとする。図・表は本文中に貼り付けず、1枚ずつファイルで送付する。

5. 原稿の査読・採否

原稿の採否は編集委員会より委託された2名の査読者の意見を参考にして、編集委員会において決定する。また原稿は編集方針に従って加筆、削除、修正を求めることがある。なお、掲載済みの原稿は返却しない。

6. 校正

原稿の著者校正は初校のみとする。校正に際しては原稿として加筆・修正は認めない。

7. 別刷

別冊配布はせず、PDFを送付する。

8. 投稿費用

学会員は無料、非学会員は1編につき3万円。

9. 利益相反

論文投稿に際し、すべての著者は今回の論文に関する利益相反状態の有無を論文末尾、謝辞または引用文献の前に記述し開示すること。なお、利益相反状態は論文に下記の如く記述する。

例1) 利益相反状態を有する場合：“〇〇〇〇は本論文に関連して△△株式会社より研究費を受けている。その他の著者は開示すべき利益相反はない。”

例2) 利益相反状態を有していない場合：“すべての著者は開示すべき利益相反はない。”

10. 送り先

下記アドレスまでメール添付し送付する。

日本女性骨盤底医学会雑誌編集委員会事務局

メールアドレス urogyne@med.osaka-cu.ac.jp

(令和元年 8 月)

平成 年 月 日

日本女性骨盤底医学会雑誌編集委員長

吉村 和晃 殿

誓 約 書

下記投稿論文は、その内容が他誌に掲載されたり、あるいは投稿していないことを誓約いたします。

論文名：

共著者名：

筆頭著者

(自筆)

投稿者用チェックリスト

日本女性骨盤底医学会雑誌投稿における患者個人情報保護に関するチェックリスト

日本女性骨盤底医学会雑誌編集委員長殿

日本女性骨盤底医学会に投稿するにあたり、特定の患者の疾患や治療内容に関する情報が記載されることが多いため、患者情報保護に十分配慮し、患者が特定されないよう十分留意いたします。

〈チェック項目〉

- 患者個人の特定可能な氏名、患者IDを記載していない。
- 患者の住所は記載していない。但し、疾患の発生場所が病態等に関与する場合は、区域までに限定して記載することは可とする（〇〇県、〇〇市など）。また生年月日、来院日、手術日などの日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は年月までを記載してよい。
- 他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定され得る場合、診療科名は記載していない。
- 既に他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに所在地を記載していない。但し、救急医療などで搬送元の記載が不可欠の場合はこの限りではない。
- 症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる番号などは記載していない。
- 臨床研究の場合は、倫理委員会の承認を得て承認書類を添付した。
- 以上の配慮をしても個人が特定化される可能性がある場合は、発表に関する同意を患者自身（本人の意思が表明出来ない場合は代諾者）から得ている。
- 遺伝性疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例報告では「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」による規程を遵守している。

平成 年 月 日

所属

氏名

(自筆)